

第 68 回北海道小学校長会総会・研修会

只今、会長としてご承認いただきました、札幌市立豊園小学校長 田邊 芳明 でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。令和7年度の役員を代表しまして、ご挨拶申し上げます。

はじめに、本日、ご来賓といたしまして、北海道教育委員会 教育長 中島 俊明 様、北海道都市教育長会 会長 山根 直樹 様をはじめ、私どもをご支援いただいております教育関係団体の皆様、そして、歴代の道小会長及び役員の皆様方にご臨席をいただいております。誠にありがとうございます。

また、全道各地より代議員・理事の皆様方にお集まりいただきましたことに、心から感謝申し上げます。

北海道小学校長会は、昭和 32 年の発足から 68 年目を迎える伝統ある組織であります。これまで、北海道の教育が幾多の困難に直面する中、「正論を以って正道を歩む」という理念の下、校長の職能向上と北海道教育の振興・発展を図ることを目的として、長きにわたり活動してまいりました。今後も、伝統を引き継ぎ、924 名の会員の皆様と力を合わせながら努力を積み重ね、一層の進化を図ってまいりたいと考えております。

現在、道内の学校現場では、深刻化するいじめや増加傾向にある不登校への対応をはじめ、特別な支援を要する児童への対応、教職員の働き方改革や教員不足等、緊急かつ重要な課題が山積しております。

私たち校長は、このような教育課題や教育改革の推進に先頭に立って取り組んでいかななくてはなりません。

そこで、今年度、道小は「笑顔（ウェルビーイングの実現）のため、つながり、学び、挑戦する道小」というスローガンを掲げ、活動に取り組んでまいります。

校長会の使命は、各学校の「教育の質の向上」にあります。そのためには、校長のしっかりとした教育理念と明確なビジョンの下、創意と活力に満ちた教育活動や学校組織の活性化を図り、子どもの成長の姿で教育活動全体を評価・改善していく粘り強い取組が必要です。そこで目指すこと、それは、「こどもまんなか」の理念に基づく、子どもたちの「笑

顔（ウェルビーイングの実現）」です。校長が「教育の質の向上」という観点を常にもち、教育改革や本道の教育課題に正対できる学校経営を実践するためにも、私たち校長は互いにしっかりと「つながり」、大いに「学び」、そこで得たことを糧としながら様々なことに「挑戦」していくという気概をもって取り組みたいと考えます。

そこで、北海道における教育課題を鑑み、今年度の道小の活動の重点を4点に絞ってお話いたします。

まず、1点目は「教員の人材確保や処遇改善等について」です。

道小では、毎年、年度当初の定数欠教員や期限付き教員の不足状況について、各地区の校長会と連携して、調査、分析を行っております。今年度も、全道的に見ますと依然として教員不足の状況は続いております。そこでの課題となる人材確保については、働き方改革と処遇改善を一体的に進めることが重要であるため、業務の改善や待遇の見直しなど、地域間格差や人的配置の問題が解消されるように、調査結果等に基づいた提案や要望を道や国に行ってまいります。また、地区校長会とも連携し、道教委との意見交換会・各課懇談会等を通じて直接行ってまいります。

2点目は、「授業改善による教育の質の向上」です。

文部科学省は昨年12月、中教審に「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」を諮問した際に、顕在化している課題の1つとして「学習指導要領の理念や趣旨の浸透は道半ば」であることを挙げております。そのため、ICTも活用しながら「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をさらに進化させ、教育の質を向上させることが求められます。そこで、新たな時代に求められる「学び続ける教師」として自らの授業力や指導力をより一層高められるような研修の充実や、人材育成に向けた取組の充実に積極的に取り組んでまいりたいと思います。

3点目は、「学校における働き方改革のさらなる推進」です。

各学校では教育課程全般を見直したり、校務のDX化に取り組んだり、専科教員の導入、外部人材の積極的活用など創意工夫をしながら取り組んでいるところです。しかし、学校における取組状況の差は顕在化してきており、まだ十分な成果を上げているとはいえません。子どもと向き

合う時間を確保したり、きめ細かな指導を行ったりすることで得られる「子どもたちの笑顔」のためにも、私たち校長はリーダーシップを発揮して働き方改革を積極的に推進していかなければなりません。そのため、道教委が昨年改訂をした北海道アクション・プラン（第3期）の基本方針に則り、着実に働き方改革を進めていく必要があります。「働きやすさ」や「働きがい」を求めて学校現場と教育委員会、教育局等が一体となって取り組むことができるような働きかけを行っていきたいと考えます。

4点目は、「校長会の各研修会、研究大会の充実」です。

私たち校長は、教育改革の推進や教育課題に先頭に立って取り組むために、研鑽に励み、学び続ける必要があります。その最大の取組が「道小教育研究大会」であります。「分科会の充実こそが最大のおもてなし」という道小の理念を大切に受け継ぎながら、副主題で掲げる「ふるさとに誇りと愛着をもちともに未来社会の創造に挑戦する子どもを育てるための学校経営の充実」を目指します。

根室管内校長会の皆様のもとで開催される今年度の「根室大会」が、校長の職能向上と本道教育の質の向上を目指した確かな「学び」として、研鑽を積む大切な機会となることを期待しております。

そして、令和8年度に開催する全連小研究協議会北海道大会に向けた準備につきましても、札幌市小学校長会の皆様とこれまで以上に緊密な連携と意思疎通を図りながら、着実に準備を進めてまいります。

結びになりますが、今年度は、子どもたちと私たち校長や教職員、保護者、地域を含めた全ての人たちの『笑顔(ウェルビーイングの実現)』のために つながり 学び 挑戦する道小」として、道内に20ある各地区校長会と、より一層つながりを大切に連携し組織を活性化させていきます。それとともに、北海道教育委員会、北海道中学校長会、北海道PTA連合会を含めた教育関係諸団体との連携(つながり)も図りながら「チーム北海道」として 北海道教育の充実のために様々な形で挑戦してまいります。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げ、私の挨拶と致します。

令和7年5月12日